



映画の裏話や性的マイノリティの方の困りごとなどを話しました。

## からだの性 こころの性 好きになる性 性の多様性を考えるシンポジウム in 野々市

10月22日(土)、文化会館フォルテで性の多様性を考えるシンポジウムが開催されました。第一部は、トランジエンダーのささやかながらも確かな一步を描く映画『片袖の魚』を鑑賞。第二部は、東海林 毅氏、齋藤 みどり氏、松中 権氏を招き、パネルディスカッションを実施しました。多様性について、東海林氏が「『みんなが仲良く』ではなく、自分の常識では受け入れられない人を認め合うこと。いろんな人がいる社会は活気が出る」と話すと、来場者は深く頷いていました。

## 野々市で創業した人・したい人が集合! ののいち創業マルシェ 2022

にぎわいの里ののいち カミーノで10月23日(日)、ののいち創業マルシェを開催しました。市内創業者や市観光物産協会員が出展するマルシェで、今回が初開催。パンや焼き菓子、カツサンドの販売からジェルネイルやSDGsゲームの体験、メタバース内アバター作成など、個性あふれるブースが並びました。また、合間に先輩創業者の話を聞けたり創業相談ブースがあったりと、これから創業を考えている人にも魅力的。13時からは創業セミナーも同時開催しました。



今年創業した「laulea moe」によるジェルネイル体験。



被害状況を把握し、対応を協議中。(災害対策本部運営訓練)

## 自助・共助・公助の定期点検

### 市総合防災訓練

11月13日(日)、マグニチュード7.2の大地震が発生した想定で「市総合防災訓練」が行われました。各拠点避難所では、町内会役員と防災士が中心となり避難所開設訓練を実施。このほか、えふえむ・エヌ・ワンの緊急割り込み放送訓練や各町内会による独自訓練なども行われました。

また、富奥防災コミュニティセンターでは、豪雨災害を想定した災害対策本部運営訓練を行い、災害発生時の応急対策を確認、検証しました。

## Freude, schöner Götterfunken ~♪ 歓喜の歌を共に歌う 第九

市音楽文化協会は11月13日(日)、市制10周年祝賀コンサート「歓喜の歌を共に歌う 第九」を文化会館フォルテで開催。三國浩平氏をゲスト指揮者に招き、同氏作曲の『序曲「カメリア」』で幕を開けました。第一部は、市内で活動する多彩な団体がジャズや大正琴、和太鼓、箏曲などの演奏を披露。第二部では4人のソリストを招き、この日のために結成された総勢84人の“市民で創る「第九」特別合唱団”がベートーヴェン『交響曲 第9番 第4楽章 歓喜の歌』を歌い上げました。



約600人が来場し、1年越しの「市制10周年」を祝いました。

# Fまちの話題 FOCUS

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。  
市民協働課 (☎ 227-6056)

## 学習と文化の祭典

### 令和4年度ののいちマナビィフェスタ

10月29日(土)、30日(日)の2日間、にぎわいの里ののいち カミーノにて「令和4年度ののいちマナビィフェスタ」が開催されました。各地区の公民館や女性センターのサークル、文化協会などの団体が、ステージ発表や作品展示などを通じ、日々の活動の成果を披露。子どもからお年寄りまで約3千人が来場し、生涯学習活動を楽しみました。

ステージ発表の様子は、市公式YouTubeチャンネルで見ることができます。下の二次元バーコードから、ぜひチェックしてみてください。

▶ YouTube配信(ステージ発表)  
10月29日(土) 10月30日(日)



▶ YouTube配信(ステージ発表)  
10月29日(土) 10月30日(日)



▶ YouTube配信(ステージ発表)  
10月29日(土) 10月30日(日)



## いまイケてるのは「ののいち」だ! IKERU NONOICHI 2022

「北国街道・野々市を IKERU (生きる・活ける・いける)」をコンセプトに昨年開始したプロジェクト“IKERU NONOICHI”。今年は「歴史資源・特産品・災害時・まち歩きのアップデート」をテーマに11月11日(金)から23日(水・祝)まで開催されました。

国指定重要文化財「喜多家住宅」では、“表出のかたち展”と題し、事物や感情の変化をテーマに表現活動を行う10人のアーティストの作品を展示。喜多家住宅にひっそりと残っていた酵母が発見されて日本酒「猩々」が復活したように、物の内部・心の内面にあるものが「表出」する作品を通じて「生」への多様な考察を促します。

11日(金)～13日(日)には“日本酒「猩々」と夜の特別展”を開催。夜のアート鑑賞とキュレーターによる作品解説や、酒蔵の面影を残す空間での角打ち（酒屋の店頭で酒を飲む）スタイルで「猩々」とおつまみとのペアリングを楽しめました。参加者は「かつて猩々が作られていた酒蔵で、復活した猩々を楽しめるのは感慨深い」と、野々市の歴史に思いを馳せながら、アートな夜を満喫していました。



①3日間限定で開館した夜の喜多家。喜多家住宅での現代アート展示は初の試み  
②通常は非公開の旧酒造エリアにも作品を展示。キュレーターの高山健太郎氏が解説  
③IKERU NONOICHI 2022のギビジュアルにも使用された五月女晴佳氏の作品  
④2階に横たわるのは梶浦聖子氏の作品「色を聴くウサギ」  
⑤高橋直宏氏の作品「杖をつくもの」  
⑥日本酒「猩々」  
⑦猩々ロゴ入りグラスで味わいます

